

海藻の種まきでブルーカーボンを創出！

～ 宗像漁協、九州大学、トヨタ自動車九州（株）、水産高校、福津市
と県が連携して実施します ～

ブルーカーボンに関する取組み：[福岡県水産海洋技術センター]

海藻に吸収・固定される二酸化炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、近年、脱炭素社会の実現に向けた大きな役割が期待されています。

令和7年1月20日、福津市津屋崎において、宗像漁協津屋崎支所、九州大学、トヨタ自動車九州（株）、福津市と県が連携して、海藻の種苗を海中で育成し、種まきする取組みを行いました。

今回、県水産海洋技術センターが生産したアカモクの種苗を、9m×1.6mの網2枚に挟み込み、津屋崎地先海域に設置しました。この春には数mに生長、成熟しますので、それを母藻として種まきに活用していく予定です。

県立水産高校から16名、九州大学附属水産実験所から5名の学生が参加し、海藻を増やすことでブルーカーボンを創出する取組みを体験しました。



アカモク種苗の取り付け作業



種苗育成網の設置



生長したアカモク（イメージ）